

441年続く伝統の神事

おとう神事 檜原村

山盛り飯を運ぶ御当番



檜原村に春を告げる「おとう神事」が1日深夜から2日朝にかけて本宿の春日神社で行われた。

元龜3(1572)

年から441年間、脈々と受け継がれてきた伝統の神事。御当番と呼ばれる神事の参加者が秋川の冷水で身を清め、火打石でおこした火で米を炊き、山盛りのごはんを神前に供えて無病息災などを祈願する。

今年6人が参加。2番目に石を打った同村上川乗の佐藤直さん

山盛り飯を供えて無病息災

(29)が火をつけた。佐藤さんは今年1月に結婚した記念に初めて参加。感想を求めると、「火をつけることに必死でした」と笑顔で応じた。

そのほか、春日神社の9月の祭礼に嚙子の応援に来ていた青梅市梅郷の梅老若囃子連から小坂文智さん(41)と船木誠さん(39)が参加した。

神事に続く直会では、干した大根の葉で作る「ひび汁」や白和えなど神前に供えたものと同じ料理が神社の役員らに振る舞われた。上元郷と本宿の約150戸にお供えの白米が配られた。(伊藤

伝統の御飼神事

檜原村で挙行



厳寒の南秋川で禊をする御当番

檜原村で400年以上で岩場が滑りやすく、上続く「御飼(おとう)神事」が1日から2日にかけて行われた。深夜に始まる禊(みそぎ)には、地域住民や写真家らが訪れ、御当番として参加した6人の雄姿を見守った。

深夜の2日 午前零時過

ぎ、小さな子ども連れられた御当番の家族や住民ら多くの人が見守る中、御当番が雪解け水が流れる厳冬の南秋川にふんどし一丁で入る禊(みそぎ)を行った。夜まで続いた雨の影響

火起こし成功は佐藤直さん

打ちに向かう佐藤さん。見事、火種を落とす。火起こしに成功すると周囲から大きな歓声が沸き起こった。仲間から「やると思ってた」「最高、最高だよ」と声を掛けられた佐藤さんは、笑顔で「ありがと う、ありがと」

員が失敗すれば再度、禊を行う厳しい決まりがある。今年一人目の御当番は次のとおり。(敬称略)

目・佐藤直さん(檜原村)の順番に。緊迫した場面でも、ひょうひょうとした面持ちで火

2013年(平成25年)3月8日(金曜日)

2013年3月8日(金曜日)